

～第64号の主な内容～

- 〈1面〉 教皇フランシスコ来校
「つながろう! 私達の社専」
のご案内
- 〈2・3面〉 社専ソフィア会
- 〈4面〉 子育て支援事業
教員リレーコラム 他

社専だより

第64号 2020(令和2)年2月1日

編集・発行：上智社会福祉専門学校

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 TEL 03(3238)3021

ホームページアドレス <http://www.sophia-sw.jp>



教皇フランシスコが来校されました



十一月二六日、教皇フランシスコが上智大学四谷キャンパスを訪れました。上智大学に教皇が訪問されるのは、一九八一年の聖ヨハネ・パウロ二世以来、三十八年ぶりのことです。当日の六号館一階の講演会場は、約七〇〇人の学生と教職員で満席となりました。冒頭の佐久間勤理事長からの歓迎の挨拶では、上智大学と上智短期大学部とともに、上智社会福祉専門学校の名前が教皇に紹介されました。教皇からのメッセージは、私たち社専生にとっても改めて学びや実践の方向性を確認することができる重要なものでした。ここではその一部を抜粋します。

「上智大学のキリスト教とヒューマニズムの伝統は、現代世界において貧しい人や隅に追いやられた人とともに歩むことです。自らの使命に基

軸を置く上智大学は、社会的にも文化的にも異なると考えられているものをつなぎ合わせる場となることについて開かれていくべきです。格差や隔たりを減らすことに寄与する教育スタイルを推進するものとなるような状況を可能にしつつ、隅に追いやられた人々が大学のカリキュラムに創造的に巻き込まれ、組み入れられていくことです。良質な大学での勉学が、ごく少数の人の特権とみなされるのではなく、公正と共通善に奉仕する者であるという自覚を伴うべきであり、それは各自に与えられた分野における奉仕なのです。貧しい人たちのことを忘れてはいけません。」

(メッセージの全文は以下よりご参照ください)
<https://www.sophia.ac.jp/jpn/news/PR/20191129call.html>



「つながろう! 私達の社専」保育士科最終講義 社専を語る」のご案内

社専つなげる委員会委員長 伊藤邦彦
(保育士科二〇一三年卒)

この度、有志で「社専つなげる委員会」という会を立ち上げ、卒業生の皆様の集まる会を開催することになりました。すでにご存じの通り、上智社会福祉専門学校保育士科課程保育士科は今年度を最後に閉科されます。本科は夜間開設ということもあり、様々な年齢、職種、国や地域の学生が一堂に会し、人と人がつながりあう福祉を学ぶ場としてこの上もない環境を形作ってきました。保育を学ぶ場であると同時に、人を学ぶ場でもあったのです。卒業生はこのでの出会いをきつかけに、保育をはじめとして様々な分野で活躍しています。

ただ、残念なことに、この魅力的な保育士科も徐々に学生の数を減らしてきました。卒業生有志で存続に向けて努力もしてきましたが、残念ながら本年度をもっての閉科が決まっています。それでも、ここで出会って、つながってきた人々とこのまま終わりにしてしまうのはもったいなと思っています。有志が中心となって何かをやるう!と言うことになりました。幸いにして上

智社会福祉専門学校と社専ソフィア会も共催で企画に企画していただき、二〇二〇年二月二九日に「つながろう! 私達の社専」保育士科最終講義社専を語る」を開催する運びとなりました。終わりの会ではなく、保育士科を中心として人と人との出会う「はじまりの会」にしたいと思っています!

当日は二部構成で行います。一部では、第四代校長ハビエル・ガラルダ先生の講演、江藤久良先生の最終講義及び最後の卒業生となる三年保育士科による「表現演習」の発表などを予定しています。二部ではキャンプ実習の師岡文男先生をはじめ歴代の先生方に多数参加していただき、



1月9日「社専つなげる委員会」の会合にて

軽食を囲みながら交流をし、つながっていきける会にしたいと思えます。

保母科・保育士科の卒業生の方々には昨年十二月にご案内をお送りしていますが、他科の卒業生の皆様も、ぜひご参加ください。

当日は参加者の方一人一人がたくさんの方に関わっていただき、これまでの活動の話や情報交換などをしていただきたいです。名刺やチラシなどもお持ちいただき、活動なども宣伝していただいても良いかな、と思っています(個人の責任でお願いします)。

お申し込みは、案内の届いている方はそちらを参照してください。届いていない方は左記の申込サイトから申し込んでいただくか、社専ホームページより申込書をダウンロードしていただき、郵送・FAXにてお願いいたします。

また、当日の会場運営をお手伝いしてくださる方を募集しています。手伝っていただける方はお知らせください。

お問い合わせは社専ソフィア会事務局へ(電話・FAX・メールアドレスは二面参照)

〈申込サイト〉

QRコード:

URL: https://www.kokuchupro.com/event/tsunagaru_hoiku/



www.kokuchupro.com/event/tsunagaru_hoiku/

社専ソフィア会

事務局 TEL&FAX : 03 - 3238 - 3027
E-mail : syasensophiakai@honey.ocn.ne.jp

上智社会福祉専門学校 ソフィア会 二〇一八年度活動報告 (二〇一九年度総会承認)

一 総会の開催
日時：九月二十九日(土)
十三時〇〇分～十七時〇〇分
場所：上智大学六号館 二〇二二室

決議事項：二〇一七年度活動・会計決算報告、二〇一八年度活動計画・予算案、役員人事講演会

「社専がつなぐ対人援助」
第一部 ハビエル・ガラルダ 先生 叙勲記念講演
第二部 卒業生シンポジウム
コメンテーター：春見静子先生
シンポジスト：高山親さん
(第二十一期生) 他二名

二 上智大学 SOPHIA 未
来募金への協力
○ 本会からの募金額五万円。
使途指定「社専の研究紀要作成」「社専の実習室・実習備品の充実」
(研究紀要査読者謝礼、および保育士科、介護福祉士科の演習用品に充当された)
○ 募金趣意書・募金ニュース等発送の支援(会員情報データ提供、発送費用の一部負担)
○ 総会参加者へ募金の呼びかけを行い、三〇六二二円の募金があった

三 役員会の開催
(場所：上智社会福祉専門学校 会議室 他)
① 日時：四月二十八日(土)
出席者：九名
議題：卒業五十年記念カードについて、インフォメーションパンフレットについて、二〇一八年度総会について
② 日時：六月十六日(土)
出席者：八名
議題：二〇一八年度総会について、社専だよりについて
③ 日時：七月二十一日(土)
出席者：八名
議題：二〇一八年度総会について、「平成三十年七月豪雨」被災会員の会費免除について
④ 日時：九月二十九日(土)

十二時〇〇分～
出席者：十名
議題：総会議案について、上智社専アウトリーチ教育プログラムへの総会講演の位置付けについて、北海道胆振東部地震被災者の会費免除について
⑤ 日時：二〇一九年一月二十六日(土) 十八時四十五分
出席者：十名
議題：総会の反省、二〇一九年度事業について

四 卒業五十年の会員に贈呈する祝状(記念カード)の作成
二〇一六年度からの継続事業。カードが完成し一九六六～六八年までの卒業生に配布した

五 クラス会等サポート事業
利用状況
○ 第十五期生同期会 (二〇一八年七月)

六 社専ソフィア会ホームページの維持・管理
社専ソフィア会総会のページを更新(作業は社専事務センターに依頼)

七 社専だより紙面作成と印刷費負担
○ 第六十一、六十二号に総会報告、クラス会等サポート事業利用報告、社専アーカイブス等を掲載した
○ 紙面の印刷費、および発送費用の一部を、本会で負担した

二〇一九年度活動計画 (同前)

I. はじめに
この度、上智社会福祉専門学校(以下社専)は二〇二〇年度入学生を最後として学生募集を停止することが、二〇一九年五月二十八日開催の上智学院理事会において決定したとの発表があった。その結果、社専は最後の学生が卒業する二〇二二年三月をもって、閉校することとなる。閉校後の本会の活動に対しては「出来る限り支援する」とのメッセージもいただいているが、具体的にどのような形で活動するかは、現在のところ未定である。

今年度の本会活動は、基本的に前年度までの事業を継続しながら、社専の学生募集停止と閉校、さらに閉校後について、活動の方向性や内容を検討していくこととなる。

なお、検討に際しては、会員の皆様のご意見を参考にし、ご意向やご要望をできるだけ反映したいと考えているので、多くの皆様から、ご意見やご希望をお寄せいただけるようお願いいたします。

II. 事業計画
一 総会の開催
日時：二〇一九年九月二十八日(土)

十三時〇〇分～十六時三十分
場所：上智大学六号館 三〇五・三〇六室
内容：二〇一九年度総会、講演会、懇親会

「社専の今までとこれから」
講師 松本栄二先生 他
懇親会と自由討議
「これからの話をしよう」

二 上智大学 SOPHIA 未
来募金への協力
① 本会から金五万円を募金する(使途指定 社専紀要作成 二万円、実習室・実習備品 二万円)
② 前年度までと同様に、会員への周知活動を行う
③ 総会参加者に向けて募金の呼びかけを行う(社専のために使用することを明示)

三 保育士科みんなどつな
がる会(仮称)への協賛
本年度末の保育士科閉科に際し、同科の卒業生・在校生有志がイベントを企画し、準備を進めている。
本会の事業として、このイベント開催への協力および資金援助を行う。

四 クラス会等サポート事業
(二〇〇六年度からの継続)

五 社専ソフィア会ホームページの維持・管理
(二〇〇一年度からの継続)

六 社専だより紙面作成の負担、および印刷・郵送の費用負担

七 会員情報の維持・管理

八 上智大学ソフィア会「オールソフィアンの集い(ASF)」への参加
ASFは上智大学ソフィア会主催の会員大会で、毎年五月の最終日曜日に開催されている。社専では近年、上智大学出身の在校生が中心となってASF会場にブースを設け、在校生・卒業生の交流の場として参加していたが、担当学生の卒業等により、従来の方法での参加が困難な状況となっている。

そのため、二〇二〇年度は社専ソフィア会としてASFに参加することとし、今年度の事業として、次年度参加のための準備を行う。

※ 事業計画三(保育士科閉科に伴うイベント)については一面に、同八(ASFへの参加)については三面に、ご案内を掲載しています。
今後の進捗その他の新しい情報は、HP等でお知らせする予定です。
皆様、ぜひご参加ください。

クラス会等サポート事業
ご利用報告

第三十二期生介護福祉士科
クラス会

日時：二〇一九年十一月三日

十八時～

場所：四ツ谷

八月、社専だよりが届きました、ふと目にする、二〇二一年度以降の学生募集の停止についての表題、社会福祉系の養成校が軒並み定員割れや減少に転じていることは、感じていましたが、まさか母校に限つてとの想いに至り、二十年前に卒業したクラスメイトが集まれる機会となればと、十一月三日(祝)母校が学園祭のなか、急遽お便りに集まっていたきました。

「太ったね」との第一声から始まった宴は、昔話や現況報告に時間が立つのを忘れて盛り上がりました。

限られた期日で返却された出欠の葉書には、今回は急な通知で集まれなかった皆さんもたくさんおり、継続的に連絡をとることの大切さを、改めて知ることとなりました。今回は少人数となりましたが、半年後の再会を約束して宴を終えました。

幹事代表 丹 千尋



二〇一九年度総会が開催されました

日時：二〇一九年九月二十八日(土)

十三時～十六時三十分

場所：上智大学六号館三〇五・三〇六室

議事：二〇一八年度活動・会計決算報告、二〇一九年度活動計画・予算案

講演会「社専の今までとこれから」

講師：松本栄二先生(上智大学名誉教授)

菅沼ケイ先生(元専任教員)

坂上和子さん(第十一期生)

松本信人さん(第二十一期生)

懇親会と自由討議「これからの話をしよう」



オールソフィアンの集いに参加します

All Sophians' Festival (ASF)

開催日 2020年5月31日(日)

場所 上智大学四谷キャンパス内のどこかの教室

内容 役員会での提案、詳細は未定です

- ① 社専サロン(お茶やお菓子を用意し、卒業生や関係者が集える場)
- ② 作業所等の製品の販売(卒業生や社専と関係の深い施設)
- ③ 社専を語ろう!懇談会
- ④ その他

☆ 協力者募集

上記企画に参加していただける方や、新しい企画のご提案等ありましたら、お知らせ下さい。また、事前準備や当日の会場運営をお手伝い下さる方も募集します。

ご連絡は、社専ソフィア会事務局まで

※ ASFについては、上智大学ソフィア会HPもご参照ください

www.sophiakai.gr.jp/

伝言板

■五期生の皆様、卒業五十年の同期会を、今年五月頃に予定しております。

後日、社専ソフィア会より案内通知が送られます。ご都合練り合わせての、多くの方々の参加を願っています。問い合わせは、左記の幹事に電話を頂ければ幸いです。

長澤 勲 〇四五・六二一、四一三九

小川寿子(旧姓龍) 〇九〇・四二四五、五三三三

〇九〇・四二四五、五三三三

上智社会福祉専門学校ソフィア会 2018年度会計決算報告(単位:円)

	科目	金額	備考
収入	会費収入	1,007,000	
	終身会費積立金繰入	200,000	
	雑収入	28	預金利息
	前年度繰越金	107,071	
	合計	1,314,099	

2019年度予算書(単位:円)

	科目	金額
収入	前年度繰越	200,647
	終身会費積立金繰入	500,000
	会費収入	1,000,000
	合計	1,700,647

	科目	金額	備考
支出	総会費	520,569	講師謝礼、「総会のお知らせ」印刷・郵送費、懇親会飲食費
	クラス会等サポート事業	9,524	開催通知郵送費、返信用葉書
	会議費	33,196	役員会交通費
	印刷費	171,621	卒業50年記念カード、社専だより第61・62号
	事務消耗品	1,600	宛名用ラベル、スティック糊
	郵送通信費	299,092	電話回線使用料、インターネットプロバイダ契約料、社専だより等郵送費 他
	委託費	22,450	会員情報データ入力、担当者交通費
	慶弔費	5,400	ハビエル・ガラルダ先生叙勲 祝花
	寄付金	50,000	SOPHIA 未来募金
	合計	1,113,452	
次年度繰越	200,647		
合計	1,314,099		

	科目	金額
支出	総会費	500,000
	SOPHIA 未来募金	50,000
	クラス会等サポート事業	30,000
	保育士科つながる会支援	300,000
	印刷費	300,000
	委託費	50,000
	会議費	50,000
	郵送通信費	300,000
	備品(Windows10搭載PC)	70,000
	事務消耗品	20,000
予備費	20,000	
次年度繰越	10,647	
合計	1,700,647	

※ 終身会費積立金残高:2,800,000円

本校学生が「レク・イントラフェス」で優勝しました

東京都レクリエーション協会が主催する第二回レク・イントラ・フェスが二〇一九年十二月一日に東京衛生学園専門学校で開催されました。当日は多くの方が参加され、本校からも在校生を代表して介護福祉士科二年生の長田さん、吉岡さんが「脳みそ・若返りの三種盛りクイズ教室」のプログラムを発表し、優勝いたしました。



表彰される長田さんと吉岡さん (介護福祉士科2年生)

卒業レポート発表会について

初春の候、上智社会福祉専門学校の卒業生の皆様におかれましては、ますますご活躍のことと存じます。皆様が一卒業されてからも、多くの先輩が同じ志のもと日々勉学に励んでおります。今年度も、保育士科、介護福祉士科、社会福祉士・児童指導員科の三科合同による卒業レポート発表会を行います。卒業生の皆様

にとつては年に一回のホームカミングデーとなり、また在校生にとつては先達からの学びの機会になればと考えております。後輩達の二年間及び三年間の努力の結晶を、温かく見届けていただけると幸いです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

開催日

二〇二〇年二月二十一日(土)

時間

一三:〇〇~

高校校長挨拶

一三:一〇~

各科成績優秀者による発表 (各十五分、質疑応答を含む)

一四:一五~

三教室に分かれ、分科会開始

会場

【全体会】

十二号館一〇二教室

(全体会終了後、各教室で)

分科会

【分科会】

各学科に分かれて報告会を実施します。会場は全体会の後、告知されますのでそれぞれの教室に移動して下さい。

下さい。

会場変更の場合、当日、正門前に掲示いたします。案内に沿ってお越しください。

千代田区委託 子育て支援事業

上智社会福祉専門学校保育士科では千代田区より委託を受けて「子育て支援事業」を実施しております。学生にとって保護者に対する子育て支援を実践する場となり学びを深める場でもあります。

二〇一九年度は七月、十月、十一月、一月の四回実施します。子育て支援の活動は午前中の一時間程度を目安としておりますが学生はその活動の準備のために二週間前より広報ポスターの作成、活動内容の検討を行い子育て支援の活動の当日を迎えます。子育て支援の活動が終了するとその場で振り返りを行い次回の課題を明確にして学びを深めます。今年度の活動では毎回卒業生の参加もあり後輩の指導及び助言をしていただきます。

子育て支援の活動は学生の学びを深め、先輩と後輩の学生間の交流、保育の現代的課題などを学び質の高い保育者へと向かっていきます。

十月「季節の変化に触れる」秋を探そう

クルトウルハイムのお庭でドングリや葉っぱを拾い秋の万華鏡を作成し、大学構内で大型絵本の読み聞かせをしました。お日様が暖かく子どもも保護者も学生も秋の一日を楽しみました。



十二月「クリスマスのものがたり」

毛糸や毛糸玉、リボンなどの素材を使い一人ひとりがクリスマスツリーを作成しました。今年は白いクリスマスツリーに金色のリボンの飾りが人気でした。

「どの色を使おうかな」、「どのリボンを使おうかな」学生と子どもが一緒に考えてクリスマスツリーを製作しました。

「クリスマスものがたり」の最後は子どもも保護者も学生もみんなで「きよしのよる」を歌いクリスマスを迎える準備をしました。



文責 保育士科 渡邊 眞理



教員リレーコラム ⑪ 未来志向の先に

根本 貴子

今年四月に新元号が決まり、穏やかな時代の到来を願いながら新年度のスタートを迎えたのですが、程なくして社専の閉校が伝えられた時には、そんなささやかな願いは一瞬にして消えてしまうほどの衝撃を受けました。社会福祉とキリスト教ヒューマニズムの精神を基に専門知識と技術を身に付けた「専門的援助職業人」を養成するをとお伝えしてきた者として、この決定はあまりにも残念でならなかったのです。開校から五十五年の歴史を持つ伝統校が無くなるという事実を、そう俄かには信じられないという気持ちもありました。

ところが、これを機に、着任二年目の私にとって、それまで知り合う機会がなかった卒業生たちからお声をかけていただくことが増え、卒業生たちのバイタリティ溢れる活動とその活躍の広がりをより強く思い知ることとなったのです。在校生の実習指導を担当して下さる卒業生は多領域にいらつしゃいますし、福祉施設を立ち上げ代表理事としてさらなる事業展開を図っている卒業生もおられます。そして、ある卒業生はこれを機会に連携が強まりつつあることを教えてくれました。卒業年度の枠を超えた新しいグループの創生もあるかもしれません。社専の歴史は、このようにして、これからも様々な福祉現場で、またいろいろなやり方で引き継がれていくことになるのでしょう。

一方、昨今、児童虐待やひきこもりなどに関係した悲しい事件は後を絶ちません。経済状況が芳しくない中で効率や成果ばかりが重視され、寛容さが損なわれつつある現代社会に生きつらさを覚える人は増えたり、これからも「専門的援助職業人」の役割は増すばかりと言えそうです。これらの背景にあるものは、個人の問題に帰すことのできない、社会の構造的課題として捉えることが不可欠で、そこに社会福祉的視点を持った支援が求められる理由があります。そして、社会に求められる専門的援助職業人になるためには、社会福祉固有の視点を学び、言語的介入をはじめとした専門技術を身に付ける必要があります。これは時間をかけて取り組むべきことなのです。

閉校まであと二年あります。引き続き「専門的援助職業人」の養成に携われることを喜びとし、卒業生たちの連携の輪が広がっていくことを願っています。

卒業生たちが様々な連携の輪を作っていくことを知ったとき、不謹慎かもしれませんが、「ピンチはチャンス」という言葉が浮かびました。

社専とは関係がないので恐縮ですが、J・F・ケネディにこんな言葉があります。

When written in Chinese, the word 'crisis' is composed of two characters. One represents danger and the other represents opportunity. (危機) という言葉は、危険と機会という漢字から成り立っている。

卒業生たちの前向きな言動には、閉校という危機を同窓の連携を強める機会に変えてしまう強さがあるように思えました。ピンチをチャンスに変えて希望を見出す未来志向の先には、予想を超えた新たな展開を期待させる何かがあるような気がします。